

# 岸恵子 美しすぎる85歳

2017年8月11日で85歳になられた女優・ジャーナリスト・小説家の岸恵子は美しすぎる。自宅はセーヌ川の中州にあるパリ発祥の地、パリの高級住宅街として有名なサン・ルイ島にある築400年の家。長年のパリ暮らしを経て、現在はベースを日本に移しながらも、日本とフランスを往復しながら活躍。

85歳といえば「おばあちゃんの年齢」なのに、彼女は違う。背筋もぴんとしているし、服装も中年女性の上品な雰囲気、まさに輝き続ける女優さんです。年齢を重ねてなお輝く若さと美しさの秘けつは何処からきているのか、彼女のお話の中から考えてみました。



岸恵子(1932年8月11日 - )

女優・文筆家。舞プロモーション所属。神奈川県横浜市生まれ。神奈川県立横浜平沼高等学校卒業。

もともとは作家志望。松竹大船撮影所を見学するうちにスカウトされ、映画『我が家は楽し』でデビュー。映画『君の名は』3部作(1953年公開、大庭秀雄監督)がヒット、21歳。以降、松竹の看板女優として絶大な人気を誇った。

1957年、フランス人映画監督と結婚(25歳)。パリに居を構え、ジャン＝ポール・サルトル、シモーヌ・ド・ボーヴォワール、アンドレ・マルロー、ジャン・コクトーらと親交。1963年、1人娘出産。18年間の結婚生活。1975年離婚(43歳)。

1996年、国連人口基金親善大使に任命された。

女優の岸恵子さんが書き下ろした小説「わりなき恋」。69歳の女と58歳の男の恋を鮮烈に描き、25万部のベストセラーとなっています。ベストセラー『わりなき恋』から四年パリを舞台にした至高の恋愛小説「愛のかたち」2017年9月岸恵子で様々な愛の形を描いている。



■岸さんは50年前に(35歳の時)に作った服を現在でも着ているそうです。体形が維持されている？

■昔から好奇心が強く、「思いついたら、すぐ行動する」

■「やりたいことはたくさんある。やりたいことがなくなったら死んだほうがいい」とも言っています。

■波乱万丈な人生を生きてきた

☆若くして女優としてトップスター 1953年 21歳

☆フランス人映画監督と結婚、渡仏 1957年 25歳  
直行便のない時代、南回り(パキスタンのカラチ経由)でパリに渡る

当時はまだ日本人が海外旅行をすることが出来ない時代であり、フランスへ移住する日本人は非常に珍しかった。

☆フランス語を学び、フランス生活に入る

渡仏後は、周りに日本人が居なかったので、必死でフランス語を覚えました。どこへ行くにも、紙と鉛筆を持ち、分からない言葉は全てその場で書いたものです。単語のつづりが分からなかった場合には、カタカナでメモし、後で辞書を引いていました。こんな環境でしたので、フランス語は早く覚えました。日本語を忘れる？いえいえ、そんなことはありません。私は文学少女でしたので、日本語を忘れるなんてことはありませんね。

☆1963年、一人娘出産 31歳

☆1975年 離婚 43歳

☆国際ジャーナリストライセンスをとり、世界と向き合い取材。2度ほど死ぬ思いをした  
色々な世界があることを肌で感ずる

国連の親善大使やジャーナリストとして東欧、アラブ諸国、アフリカへも行き、命の危険を感じるような思いをしたこともある。

☆最近では小説家として活躍



■何かすることがあり、一生懸命にやっていると、老けている暇がない

■何もしなければ、老いるだけ！

■「美しさ」というのは私の美学です。それはつまり、言葉遣いや佇まいが美しいこと、さらには自分の立場をしっかりとわきまえ、潔く、思いやりを持つことです。そうでないと、魅力を感じないのです。出会い方、そして別れ方というのは、とても大切なポイントだと思うのですが、別れるにしても美しくなければならぬと思っています。